

健康寿命の延伸を目指した後期高齢者歯科健康診査の効果的な運用方法の開発に関する研究

1. 研究の対象

2017～2025 年度の大阪府後期高齢者医療制度の被保険者

2. 研究目的・方法

目的

歯科健康診査の受診者と未受診者の臨床経過を比較して、後期高齢者における歯科健康診査の有効性を評価する。併せて、健康寿命の延伸に資する受診勧奨の優先対象群を同定し、効率的な健診運用システムの構築に資する知見を得る。さらに、歯数などの口腔機能指標と死亡・要介護移行等との関連を疫学的手法で検討する。

本研究は、以下の 3 つのフェーズで、口腔機能と健康寿命との因果関係を検討する。

方法

◆フェーズ 1：データ抽出および加工

2018 年 4 月～2025 年 3 月に歯科健診を受診した約 40 万人を対象に、歯科健診や医科健診の結果、ならびに国民健康保険データベース（KDB）から抽出した医療・介護情報を基として、ベースラインコホートを作成する。KDB 情報より、2030 年 3 月までの慢性疾患の新規発症・進行、歯科治療介入、ならびに要介護度の変化を評価する。以下に、主な評価項目を列挙する。

歯科健診：歯科医師会に所属する歯科医師が、マニュアルに従い評価する。

1. 口腔内検査：歯の検査（歯数、齲歯、修復状況）、歯周組織検査、義歯の評価など
2. 口腔機能評価：口腔衛生状態、口腔乾燥、舌口唇運動機能、嚥下機能など
3. 問診：各口腔問題の自覚の有無、口腔清掃習慣、歯科医院通院状況など

医科健診：

1. 身体計測：身長、体重、BMI、腹囲など
2. 理学的検査：血圧測定、血液検査（脂質/肝機能/血糖/腎機能）、尿検査など
3. 問診：基本チェックリスト、喫煙・飲酒習慣、運動習慣、歩行速度、食習慣など

KDB 情報：

1. 医療情報：医科・歯科受診の有無と内容、入院や透析の有無、処方薬剤、医療費など
2. 介護情報：要介護度、介護認定日、介護費など

統計解析

臨床的・学術的考察を踏まえた上で、臨床的に考え得るメカニズムの仮説を立て、統計学的手法を用いて分析する。ロジスティック回帰分析、COX 比例ハザード分析、一般化構

造方程式モデリングによる媒介分析など、仮説に応じて適切な統計モデルを選択し、検証する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

大阪府後期高齢者医療広域連合が管理する 2017～2025 年度の後期高齢者医療制度の被保険者の診療情報明細書（レセプト）、介護給付、後期高齢者健康診査、後期高齢者歯科健康診査等の既存情報から個人情報を削除した仮名加工情報⑤提供する試料・情報を用いる研究に係る研究責任者の氏名及び当該者が所属する研究機関の名称

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪府吹田市山田丘 2-1
大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター保健管理部門
山本陵平
TEL:06-6850-6038
FAX:06-6850-6040
E-mail: yamamoto.ryohei.ras@osaka-u.ac.jp

研究責任者：大阪大学大学院歯学研究科有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 池邊 一典